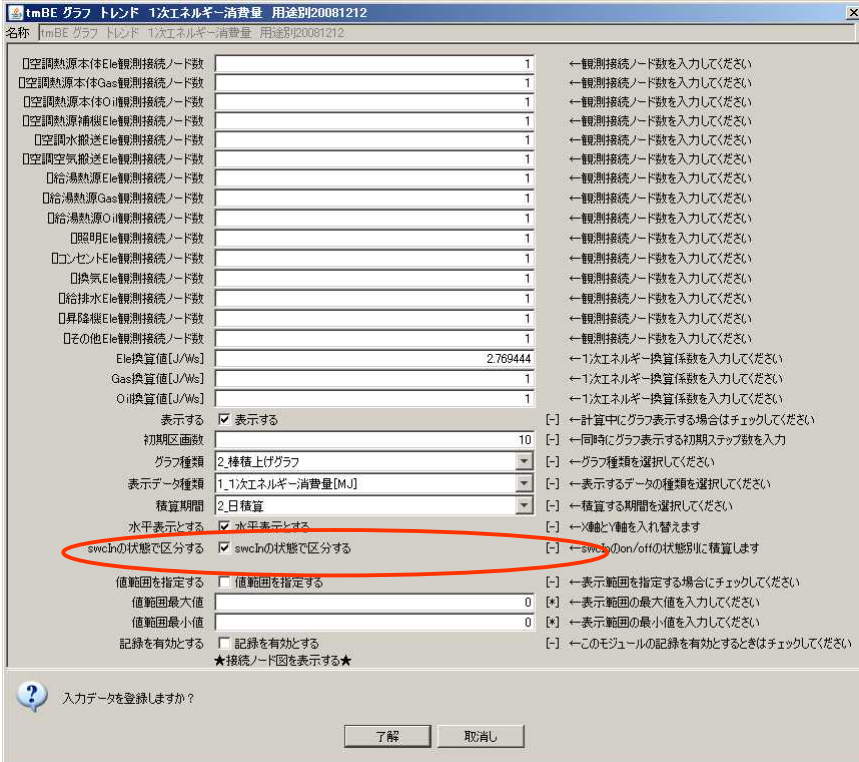




付録5.1 1次エネルギー消費量のグラフを昼・夜に分けて表示する手順

蓄熱システムで熱源運転が夜間へどれだけ移行したかを確認する方法の一つとして、1次エネルギー消費量の積算グラフを昼と夜に分けて表示する方法を説明します。



ワークスペースの「テンプレート 建築設備 例題モデル基準ゾーン 水蓄熱20090303」フォルダの中にある「tmBE グラフトレンド 1次エネルギー消費量用途別20081212」モジュールのスペック入力画面で「swcInの状態を区分する」チェックボックスにチェックします

補足) このモジュールでは、L1_swcIn ノードに接続された制御情報の on/offを判定し、onの時を昼間、offの時を夜間として積算処理を行います

同じモジュールのシーケンス接続画面で次のようにL1_swcIn ノードの接続相手を変更します

L1_swcIn (制御On/Off信号入口)
設備 テンプレート 建築設備 例題モデル基準ゾーン 水蓄熱20090303 / tmBE tmTST テンプレート 水蓄熱槽20081201 / L1_swcOut2Pump

計算を実行すると下図のグラフとなりました
空調熱源本体と空調水搬送の電力が昼間と夜間に分離されたことがわかります

* 作業が終了していない場合は「付録5.1 (変更後).zip」を読み込んで計算を実行してください

